

# 京都支部報

No. 7

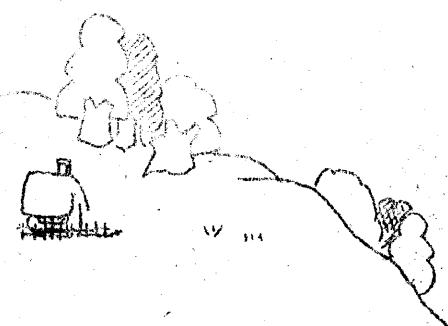
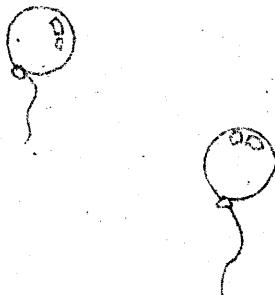
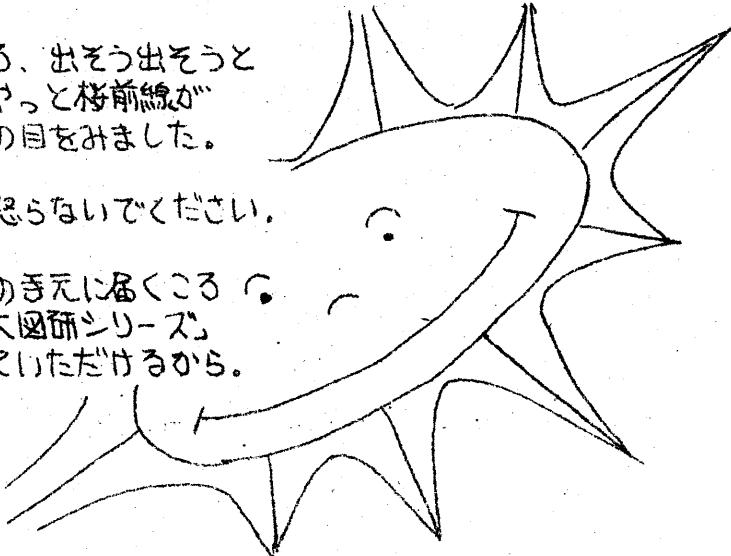
■ 大学図書館問題研究会京都支部 誌

〒606  
京都市左京区吉田本町  
京都大学城陽書部図書館  
受信料 月額 1,731円 3412

比えいおろしが吹くころ、出そう出そうと思っていた支部報が、やっと桜前線が北上して来た今日、日の目をみました。

でも、みなさん、そう怒らないでください。

この支部報が、皆さんのお元に届くころ、京都がつくりあげた「大図研シリーズ」も皆さんに見て活用していただけますから。



## 一 目 次 -

- ・ 全国研究集会のお知らせ - 2
- ・ 例会報告
  - その1 「京都市立図書館をめぐる」 - 3
  - その2 研究集会「図書館等の課題」 - 4
  - 森先生のレシメ - 4
  - 鴻井支部長のあいさつ - 6
  - アンケート結果報告 - 6
- ・ 図書館見学をして、その1 - 7  
千葉大前屋図書館 京大 提
- ・ 編集後記 - 8

# 図研 全国研究集会(関西集会)のお知らせ

テーマ：国民の知る権利と大学図書館の社会的役割

とき：1980年4月20日(日) 10:00～16:00 受付 9:30～

ところ：大阪府立労働センター 5階 オ2研修室 Tel (06) 942-0001(代)

京阪 または 地下鉄谷町線「天満橋駅」下車、松坂屋西へ200m

- 大学図書館の原点にたちかえり、その今日的役割を問い合わせなおこう。
- 大圖研10年の活動成果をふまえ、大学図書館のすすむべき方向を明らかにし、大学図書館の理論構築をめざそう。
- 大学における教育・研究とのかかわりや、社会とのかかわり(学習図書館機能・研究図書館機能・社会的機能および相互の関連)を明らかにし、利用者像を確立しよう。

このような観点のもとに、午前中、以下の柱にそって、関西三支部の専門委員会研究グループや例会での集団討議をもとに、その成果を基調報告の形で発表します。午後は、これらの基調報告を受けて、総合テーマについて総合的・多面的に討論を行ないます。

春の大阪城と中之島公園にはさまれた会場で開かれるこの研究集会に、会員、非会員を問わず、多数ご参加下さい。

## ① 基調報告の柱

### 仮題「自由宣言と開かれた大学図書館」(酒井忠志氏)

図書館理念の今日における到達点である「図書館の自由に関する宣言」(1979改訂)や同宣言と表裏一体の関係にあり、これまでの図書館活動のひとつの総括として、やがて採択されようとしている「図書館員の倫理綱領」(オ4次案)、さらに今の大問題検討委員会の報告書「日本の大學－その現状と改革への提言」と共に、総合テーマにそった形で報告します。

### 「貸出をのばすための専門委員会」中間報告(鍵本芳雄氏)

学生の学習権や知る権利の保障という観点から、図書館の最も基本的な機能である図研の組織課題でもある「貸出」の定義や「貸出をのばす」意義・要因等について、図書周委員会による調査・検討結果の中間報告を行ない、意見を求めます。

### III. 「専門情報システムのあり方をめぐって」 (齋藤敏幸氏)

昨年の学術審議会の中間報告を中心に、国の図書館・情報政策の流れを事実としておさえ、総合テーマの観点から、国の図書館・情報政策 - コンピュータ・等価情報システム・ネットワーク - をどうとらえるかについて考える素描を提供します。

### IV. 「国民の知る権利と大学図書館の市民開放」 (佐野 博氏)

なぜ大学図書館を市民に開放しなければならないのかという点を中心に、「大学図書館の市民開放について考える専門委員会」における検討結果の中間報告を問題提起的にみこなします。

## ■ 例会報告



長らく支部報が出来なかったため、2回分まとめてになりました

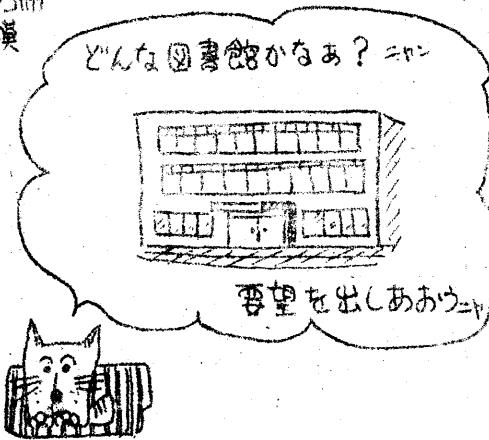
### その1. 「京都市立図書館をめぐって」 オ4回例会 1979.12.22

オ4回例会は、「京都市立図書館をめぐって」というテーマで、1979年12月22日(土)午後、百万辻の京都学生センターでおこなわれました。立命 - 5名、電大 - 4名、京大 - 3名、工織大 - 1名、滋医大 - 1名。それに左京区の家庭文庫・地域文庫関係者が四人出席してくださいました。講師は関西学院大学の芝田正夫氏が引き受けくださいました。

まず芝田氏が、「京都市立図書館問題について」と題して、その現状、経過、問題点を資料を示しながら詳しく報告。要旨は次のとおりです。

「百万都市として唯一市立図書館をもたなかつた京都市においてもようやく市立図書館の建設がはじまり、社会教育会館の分館として一区一館のち向で、すでに左京、山科、南が開館し、北区でも本決りとなっている。また、市民病院跡(九太町七本松)に、1986年4月開館予定で社会教育総合センターが建設中で、その図書館部内は、面積二千平方メートル・蔵書十二万冊である。これは人口十カ都市の中央館の規模といえる。ちなみに、神戸市立は八千平方メートル、名古屋市立は一カ所一千平方メートルである。」

「これにたいし、京都家庭文庫・地域文庫連絡会(京塵連)が、具体的な要求を上げて精力的に運動をすすめ、図書館関係者を中心とした「京都市立図書館を考える会」も発足し、意見書をまとめて市教委とも交渉している。」



「現在の問題点として、①専門職員が配置されず、サービスの中身も先進館からみると歴段おちる。②「開設準備室」のような機構がなく準備が不十分。③住民運動の力量をもっと強化する必要がある。④京都における社会教育行政の位置づけを高める。⑤八幡、龜岡両市での図書館建設とその影響（この場合は好い影響が期待される）⑥図書館のイメージが市民に広がっていない。などが指摘できる。」

つづいて、京庫連の関係者から、今までの運動について、発言がありました。

「修学院子ども文庫として左京区の社会福祉センター建設運動に加わり、11万人の署名を集め市長交渉にのぞんだ時、はじめて図書館要求を出したところ、それが実現することになり驚いている。」

「左京分館開館1年の1978年7月には、館長と話し合い、・紙芝居やフィルムも備える。・児童書勉強会の指導をやってほしい。・開館時間の延長。・市民しんぶんやニュースなどごもっととPRしてはどうか。・団体貸出を日曜日にもしてほしい。・リクエスト制度を――等を要望した。」

これらの報告や発言にもとがいて意見をまとめました。大学図書館関係者としては、はじめ、「図書館づくり住民運動」をまのあたりにみるおもしろい話で、公共図書館について理解を深め、利用者としても、図書館員としても要望を出し、運動体へ参加していくことや、大学図書館と公共図書館とのかわりについても研究していくことなどを席感させられました。

## その2. 〔研究集会〕「図書館学の課題」 1980.1.19.

1980年1月の例会は、研究集会として19日(土)午後、教文センターでひらかれました。

大図研京都支部では、会員の創意を生かした小グループによる日常研究を活発におこなう方針をきめ、その第一歩として、森 耕一氏（京大教育学部教授）をむかえ、図書館研究の無限の開拓分野について、「図書館学の課題」と題して講義してくださいことになりました。当時は、大阪・兵庫の各支部からも多数の参加があり、全部で五十人近い出席のもとに三支部合同の例会としておこなわれました。

また、研究集会の終了後、近くの中華料理店で懇親会をひらきました。

### 〔森先生のレジメ〕 図書館学の課題

#### I. 基礎論

- P. Butler 「図書館学序説」  
J. H. Shera "Introduction to library science."  
P. Karstedt 「図書館社会学」  
小倉親雄 「アメリカ図書館思想の研究」

#### II. 図書館資料論

##### 1). 図書選択・蔵書構成

河井弘志：英米図書選択論史「界」Vol. 31 (1)

2). 知的自由

"Intellectual freedom manual."

Advances in librarianship, vol. 2.

3). メディア・セミナー

III. 図書館資料組織論

1). 特定図書検索(目録法)

目録法史 Strout

主記入論争 → 配置独立式(1956)

Computerized cataloging

2). 主題検索(分類法)

S.R. Ranganathan. Faceted classif.

専門分類表

件名標目 → Thesaurus (descriptors)

\*文献情報 - 情報検索

IV. 図書館活動 Library services

貸出 - コンピュータの導入

レファレンスサービス Rothstein 長沢記

読書会・読書運動

文化活動

V. ①. 図書館システム

分館論 西村精一、栗原嘉一郎

中央図書館

2). 図書館ネットワーク

VI. 図書館管理 Lib. administration

蔵書調査、図書館利用調査

図書館評価

図書館計画、図書館の基準

VII. 図書館行政

図書館法の歴史・比較研究

監督論、館長論

VIII. 図書館史

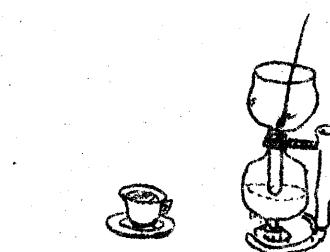
Johnson、小野泰博、小野惣秋

教育史と図書館史

思想史・科学史(ないし知識の歴史)と図書館

\* E. Edwards、中田邦造、中井正一、有山義

※ 森先生の講義は「大図研シリーズ No.3」として、近く発刊されます。



## 附 酒井忠志支部長のあいさつ（要旨）

大阪府京都支部は、1978年10月に結成され、今日で1年3ヶ月になりますが、この研究集会は、今後、研究会を実質的にやっていくはじりとなるでしょう。

グループ研究をさかんにしようと針をかけていますが、何をどんなテーマでやるのか、図書館のことを考える場合、どんなことが課題となりうるか、そのあさらいを一々やろうと、軽い気持ちで考えていたところ、森先生のレシメは、問題に真正面からとりくんでいただいたものでした。

その内容は、今日の図書館活動のあり様を反映して、公共図書館のにおいか強いものです。これを大学図書館の中へどう展開していくか、それは我々の責任であり仕事であります。

これをきっかけに、グループ研究をさかんにし、個人の研究とグループ研究がかみあっていい成果をあげられるよう期待したいとおもいます。このためには、核となってくれ話ををするのがいりますが、支部委員会はこれを引受けける決意です。

## 附 研究集会アンケート結果報告

今後の支部運営と日常的な研究活動の指針をさぐるべく、アンケート調査を実施しましたが、本紙面をかりて寄せられたご意見等を紹介します。なお回収率は運営上の手違いもあって、50名中18名4割弱となっています。

### 1. 今日の研究集会の感想

「図書館学の課題を全体的に学ぶことが出来た。」「図書館学の課題の見取り図とヒントが得られた。」という主催者にとってありがたい感想が多く寄せられています。図書館学全体をカバーした展望といつはじめでの試みが多く的人に対する評議を博したようですが、反面「もっと時間が欲しかった。中身を濃くするにはあまりにも時間が短かすぎる。」「もう少し突っこんだ討論を...」という卒論等の意見も寄せられています。後者の意見は、「狭い範囲の學習会の開催」や「定例化し図書館学の紹介・報告を系統的に聞く会を開催したらどうか。」という提案に結びつくもので、今後のとりくみの参考にする必要があるでしょう。又、大阪支部から参加された会員から、「合同例会」として今後開催してはどうか、という旨の希望が寄せられており、支部委員会としても検討したいと考えています。

### 2. 図書と図書館に関する興味ある分野

蔵書構成 - 1	図書館の自由 - 3	資料組織論・分類法 - 1
図書館活動 - 3	図書館システム - 1	図書館ネットワーク - 3
図書館評価 - 1	図書館行政 - 3	取扱説明書 - 1
		図書館史 - 6

### 3. 今後とくに継続して研究したいテーマ

図書館基礎論 - 1	図書館の自由 - 4	資料組織論 - 1
図書館活動 - 3	機械化 - 1	図書館管理 - 1
		図書館史 - 4

まとめにかえて

昨秋の支部総会において、小グループ研究会の結成を提起しましたが、今回の

研究集会をきっかけに、さらに具体化をめざすべく、アンケートの2の興味ある分野にあげられた諸テーマは、月例会運営の参考に、3の継続研究にあげられた諸テーマは、小グループの結成の参考にしたいと考えます。

## ■ 図書館見学をして その1 京大・経済学部図書館 提 豪範

去年の10月から今年1月まで、長期研修（東大図書館・情報センター）に参加した中で、最も印象深かった東京各地の図書館見学を紹介したいと思います。

この見学は、授業の一部であり、機械化されている大学図書館を中心に、千葉大、横浜国大、電通大、東京学芸大、国会図書館、国文学研究資料館、筑波大、中央大、日野市立図書館、そして他に古典資料が集められている一橋大学の「社会科學古典資料センター等をまわりました。今回は、千葉大学附属図書館の見学を紹介します。

千葉大学附属図書館の閲覧業務は、貸出返却、予約、閉合せ、督促、利用統計がすべてコンピュータで処理されています。専用のコンピュータは、思ったより小型で設置室をせまいものでした。



千葉大のコンピュータ導入は昭和53年度に予算がまとめられ、12月に機械が設置され、54年4月より閲覧業務が機械化され動いています。現在、雑誌管理業務と受入管理業務が準備中のことです。

実際にカウンターに置かれてある端末機を使って貸出と返却の作業をやらせてもらいました。OCRハンド・スキャナ（これは、ちょうどコード付のサイレントのようなもの）といわれるもので、利用者カードの登録番号と図書のコードラベルの番号をこするだけで処理されます。利用者が気軽にスピーディに図書を貸

る事が出来る便利さは、雑誌か本かで読むことがありましたがヨリセニときどきせんでした。しかし、実際に見、経験することでこの便利さをはっきり理解する事が出来ました。

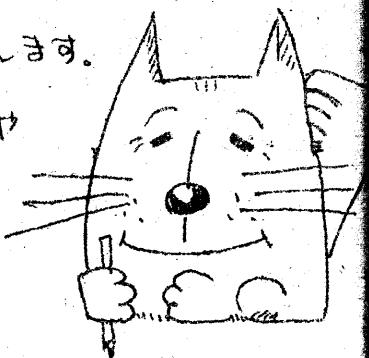
ただ、現在6万冊しか図書コードラベルが用意されていないため、それ以外の図書が貸出される時は、その場で登録番号をタイプで打ち、コードラベルを図書に貼りつけ、その間、利用者をカウンターの前で待たせなければならぬ不便さが残ります。又、督促の店頭では、コンピュータで打ち出された利用者名が受付掲示板に貼ってあります。文字が小さい上に、カタカナで非常に読みにくい、あれで効果があるのかなあーと疑問を感じました。

とにかく、私にとっては、今回はじめて、図書館のコンピュータシステムを見たので、利用者が楽で便利だなあーということは第一に感じましたが、この準備をする職員の苦労はたいへんなものであつたたろうなあと痛感した次第です。

## 締集後記

昨年の総会の時に、出来れば毎月支部報を出そうと思っていたけれど、なかなか出せませんでした。その原因は、まず私のタイソンと原稿がなかなかあつまらないことがあります。が、もうと大きいことはそもそもニュースが少なくて困るので、皆におねがいします。何人でもいいですから、研究の成果や自館のこぼれ話やおもしろいことを書いて送ってきて下さい。

今回はどういうわけか、首と肩がいたみまくして仕事のしずきか？あとひすきか？ともかくつかれたって。



立命の次回まで……

5月研究会

# ネットワークの考え方 — 大学図書館をどう発展させよか(1) —

〈講演〉

猪俣 桂 梓 夫 (京都大学大型計算機センター)

学術審議会の答申「今後における大学情報システムの在り方について」が示されたあと、文部省では、3月に大学図書館係員との連絡会議を開くとともに、学術情報セミナーにシステム開発会議の調査協力者会議と4月に実足させ、8月にも中長期告が出され見込まれます。大学図書館問題研究会京都支部は、4月の全室研究集会(大阪)におけるグループ研究を通じ、大学図書館について、ネットワークシステムの構成構造としての発展、が、「大学の全構成員一同の要求にむとづく大学図書館の総合的な発展、が」という問題を明確にしました。大学図書館のネットワークをめぐる論議は、今後、大学図書館の発展方向をめぐる論議の焦点となることばかりあります。大学図書館問題研究会京都支部では、継続的にこのテーマで例会や研究会を開いていますが、今回はその中で、ネットワークの大型計算機(コンピュータ)の諸問題について、専門家の見解を王すことになりました。

とま  
レ=3

5月17日(土) PM. 9:00 ~ 4:30  
立命館大学(広小路) 清心館2階

大学図書館研究会京都支部

連絡は  
5月8日  
内線3412  
沢居まで  
(本経済)